

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成 29 年度第 5 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事 務 局 (担 当 課)	小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時	平成 29 年 12 月 8 日 (金)		
開 催 場 所	小金井市中間処理場事務所棟 研修室 I		
出 席 者	委 員	<出席者：11名> 岡山会長・溝入副会長・北澤委員・杉本委員・山田委員・吉田委員・黒須委員・齋藤委員・多田委員・林委員・岸野委員 <欠席者：4名>	
	事 務 局	藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・富田・高田・信岡・佐藤・玉井	
傍聴者の可否	可	傍 聴 者 数	0
会 議 次 第	1 開 会 会議録の確認について 2 報 告 新可燃ごみ処理施設の整備運営について 燃やすごみ処理量の昨年度との月別比較について 清掃関連施設整備基本計画検討会議について 3 議 題 平成 3 0 年度一般廃棄物処理計画について (審議) 4 その他		
会 議 結 果	別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料	別添のとおり		
そ の 他			

(審議過程) 主な発言等

岡山会長	<p>只今より平成29年度第5回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。</p> <p>本日は、石田委員、清水委員、波多野委員から欠席の連絡が入っている。</p> <p>それでは、本日の配布資料について、事務局から確認をお願いします。</p>
玉井減量推進係主任	(配布資料確認)
岡山会長	<p>それでは、前回の会議録について確認する。会議録は本日の審議会に先立ち送付されており、本日机上にも配布されている。意見・修正等の申し出があれば、12月14日、木曜日までに事務局まで連絡をお願いしたい。その後、事務局にて公開手続きに入る。</p> <p>次に、本日事務局より提出された資料について、報告と説明を求める。</p>
佐藤ごみ処理施設担当 専任主査	(「新可燃ごみ処理施設の整備運営について」口頭説明)
玉井減量推進係主任	(「燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について」説明)
富田減量推進係長	<p>(「清掃関連施設整備基本計画検討会議第9回資料」説明)</p> <p>清掃関連施設整備基本計画検討会議第9回資料について、説明する。</p> <p>平成29年11月30日に、第9回検討会議を開催した。整備基本計画(素案)P33を参照されたい。施設整備の候補地について、(5)で建設予定地の決定とある。12月5日の庁議にて、候補地を予定地として行政決定したところである。検討会議は11月30日であったが、パブリックコメントへの最終案として検討した素案なので、記載上は「決定した」となっている。この文のあとに、「なお、予定地周辺の自治会等の代表者の方が参加する協議の場については、今後も継続して開催する。」と追記する予定である。</p> <p>続いてP125を参照されたい。平成36年度中の運営</p>

(審議過程) 主な発言等

	<p>開始を目指している。処理品目の配置は、中間処理場敷地に、プラスチック、びん、ペットボトル、缶・金属を配置し、二枚橋焼却場跡地に不燃、粗大、リユース関連のもの、布を配置し、災害廃棄物一時保管場所は両方としている。</p> <p>今年度中のスケジュールとしては、前回検討会議のご意見を踏まえ、修正した案を検討会議会長、副会長確認のうえ、12月15日から1月14日まで意見募集する。12月16日(土)には、午前10時から商工会館2階で市民説明会を開催する。これらの手続きを経て、3月中に策定することとしている。</p>
玉井減量推進係主任	(「平成30年度一般廃棄物処理計画修正案」説明)
岡山会長	<p>報告事項については以上である。</p> <p>それでは、事務局の平成30年度一般廃棄物処理計画修正案の説明を踏まえて、審議に入る。</p>
林委員	<p>先ほど説明のあった3ページの内容は、事務局が適切に修正することでよいと思う。表をみただけで理解できるようにという趣旨かと思うので、わかり易い表記を工夫していただきたい。</p>
富田減量推進係長	事務局で適切な表記を検討して修正する。
林委員	<p>施策の展開2以降の施策表を削除することだが、そうすると(2)安心・安全・安定的な適正処理の推進の取組内容にある「ふれあい収集の推進」の記載が無くなってしまう。ふれあい収集のような活動は、職員のモチベーション向上にも繋がると聞いている。そうした活動をもっと広げられないかを感じる。</p>
岡山会長	<p>施策の展開2以降は、当たり前やる事であり本来は施策の展開に書かなくてもよいが、文言表記に全ての取組内容が書かれているわけではないので、表を全て削除してしまうと何をやっているのかわからなくなってしまう。項目としては残しておいた方がよいのではないかと。</p>

(審議過程) 主な発言等

富田減量推進係長	<p>ふれあい収集は基本計画の中で、安心・安全・安定的な適正処理の推進に位置付けられている。例えば、地域におけるひとづくり・まちづくりのような近い項目に追加的項目として残すことも考えられるが、本来的には他の施策に動かすことは馴染まない。それか、施策の展開2になお書きで一文を掲載することもできる。</p>
林委員	<p>ふれあい収集事業を評価する物差しになるのであれば、表に残した方がよい。</p>
富田減量推進係長	<p>ふれあい収集の評価指標は難しく、地域の一つのセーフティーネットとしての取組みとして重要であるが、利用者の方が増えることが望ましいというわけでもない。</p>
岡山会長	<p>施策の展開2以降は、当然の業務としてやっていることなので、目標値を据えてどうこうというのは馴染まない。表を全て削除するのではなく項目は残し、文言部分にふれあい収集のことを盛り込み、可燃ごみ共同処理の説明の前で、ごみの収集・処理のことに触れたい。</p>
富田減量推進係長	<p>ごみ処理体制については、21ページ以降で触れているため、目標設定をしないのであれば重複する。計画項目や取組内容は基本計画に全て記載されているため、施策の展開という項目にあえて二重記載する必要があるのかということかと思う。</p>
岡山会長	<p>表を削除し、文言説明だけとすると、説明が網羅的でない。また、文章で書くより、表の方が分かりやすい。</p>
林委員	<p>表を念頭に、それを説明する文章になっているため、文章の表現は見直す必要がある。</p>
富田減量推進係長	<p>それでは、目標設定の部分だけ削除し、表は残すということでもいいか。</p>

(審議過程) 主な発言等

林委員	それであれば、ふれあい収集の部分も残る。
岡山会長	適正な処分をしているという意味合いでの事業の紹介に留め、優先度を示す表記も削除することでよいと思う。
林委員	それに合わせて文章も調整していただきたい。
溝入副会長	優先実施、重点実施などの表記に裏付けはあるか。
岡山会長	あまりないが、重みづけのために主観的に付けてきた。施策の展開 2 以降は重みづけの必要も特にないと思う。
溝入副会長	分けるとするなら、継続するものと、審議を始めるものである。優先順位づけをそこまでやる意味はない。
岡山会長	では、表の取扱いはそのように決定する。
林委員	15 ページの「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」だが、最近よく耳にするが、主催が不明確なので、書いた方がよいのではないか。
富田減量推進係長	環境省なども主催だが、実施しているのは組織委員会である。
杉本委員	小型家電と同じように回収しているのか。
富田減量推進係長	小金井市では専用ボックスを設置し、レアメタルの含有率が高いスマートフォンと携帯電話を集めており、環境省が認定している業者が無料回収している。
岡山会長	小委員会についてだが、昨日をもって 2 年間の小委員会は終了し、報告書をまとめた。報告書では、未活用資源として廃食油の回収について、政策にするかしないかに問わず、回収方法の提案までに留めている。
林委員	来年度の処理計画に反映するなら、小委員会報告の実施

(審議過程) 主な発言等

	<p>検討までだと思っている。小委員会の継続テーマとして、今考えているのが、「武蔵野市がごみ収集のあり方等検討委員会」のようなもの。武蔵野市では1年間やっていて、中身としては、環境負荷及びごみ処理費用の低減を目指し、ごみ収集の見直し、分別区分のあり方などをテーマにしている。それほど斬新なアイデアは出ていなかったが、報告書を作る過程で、行政収集の現状などが整理される。これらを審議会の中で共通認識として整備するため、前半は勉強会風になるが、課題が抽出できるとしている。分別区分は、小金井市は既に他の自治体よりも細かい分別ができていたためあまり参考にはならないが、ベーシックなことを知っておくことはよいと思う。各品目がどのような頻度で、どれくらいの量を運んでいき、それにどの位の経費が掛かっているか実態が明らかになれば、回数を減らすなどの対策も考えることができる。</p>
岡山会長	<p>処理計画の最後にフロー図が載っているが、ここに処理量を当てはめることはできると思う。また、委託業者とその経費を明らかにすることはできると思う。しかし、それをやってどうするかという問題がある。現在、戸別収集という形で最高に丁寧な収集体制を組んでいる。ステーション収集に戻すなど効率化の話を持ち出すと逆行することになり兼ねない。審議会の立場としては、個別の種類のごみに対してなら検討の余地はあるが、収集のあり方を審議しても効果は薄い。</p>
林委員	<p>小金井市はごみの収集コストが高いという課題があり、現状の費用が妥当かどうかを検討できる。</p>
杉本委員	<p>市は把握しているのか。</p>
岡山会長	<p>当然把握している。税金であるため、厳しく管理されている。収集体制は処理施設によって大きく左右されるため、収集体制のみで効率・費用の話をする、資源物回収はやめた方がよいというような話になってしまう。</p>

(審議過程) 主な発言等

林委員	3市共同処理が始まる前に、小金井市の方向性を決める必要があるとの目的意識から提案した。
杉本委員	市で既に検討しているのではないか。
藤田ごみ処理施設担当課長	現在、3市で打ち合わせをしているところである。
岡山会長	来年度は災害廃棄物処理計画を決めていかなければならない。さほど簡単に書いていい計画ではないため、小委員会の中で調査・研究をしてもいいと考えている。やり方は、ワークショップのような形式で事例研究から始め、市民として自分の生活圏内に落とし込んで考えていけると、実効性のある計画作りという意味で市に貢献できるのではないか。
山田委員	趣旨は良く分かるが、焼却施設がある日野市の意向を反映できるのか。
岡山会長	仮置き場が一番大変である。発生直後は被災した自治体が一番パニックを起こしている。周囲が支援しようとしてもなかなか話ができなかったり、逆に組合の中の規定で通常の生活ごみの受け入れのみと限定している場合もある。その辺りを考えながら作っていくことが現実的である。
藤田ごみ処理施設担当課長	災害廃棄物の内、可燃ごみについては、浅川清流環境組合の処理計画に見込んでいる。なお、3市全てが被災した場合は20年かけて処理を行うという計画になっている。
富田減量推進係長	災害廃棄物処理計画策定に係る来年度予算が翌3月に可決されたとして、実際に執行するにあたり、コンサルタント会社に協力を依頼することになる。事業者を選定し、協議、資料整理をした後に案文を作ることになるため、諮問は早くても夏以降になる。例えば、前半に先進事例の研究や過去の事例の検証を行い、後半に実際の審議に入っていくということであれば、有効な機会になるかもしれない。

(審議過程) 主な発言等

岡山会長	また、勉強という機会であれば、小委員会と限定せず、都合の合う方にご参加いただければよいと思う。
岡山会長	確かに、いきなり計画を出されて審議となっても難しいと思うので、事前に勉強しておくことはよいと思う。
富田減量推進係長	では、学習の機会としては小委員会と限定せずに機会を設け、一定の分野についてさらに研究が必要であるとした場合は小委員会として調査・研究を行い、その結果を審議会に上げていただくことにし、設置の有無については来年度の決定ということでよいか。
岡山会長	フレキシブルに対応できるということであればよい。適宜、必要に応じてということにする。処理計画の記載については、未活用資源を廃食油と限定して実施に向かう方向にすることでよいと思う。
溝入副会長	目標が小委員会開催のままだと、開催することになる。30年度に取り組まないのであれば整合が取れない。
富田減量推進係長	未活用資源の有効利用方策の調査・研究の計画項目は基本計画に基づくものなので削除はできないが、それに対応する具体的な取組内容を廃食油の検討という項目に落とし込むことはできる。
岡山会長	では、優先実施を変更し、具体的な取組の部分で施策化を検討するような文章にすることでよいか。目標の小委員会の開催は「検討」などに変わることになる。
富田減量推進係長	表中下から2番目の未活用資源の記載と生ごみの効率的な収集・処理、有効利用に向けた調査・研究の項目を統合する形で、廃食油の資源化の事業化の検討という項目に落とし込む形でいかがか。
岡山会長	それでよい。

(審議過程) 主な発言等

岸野委員	今、ごみゼロ化推進会議で「ごみの相談員」制度の見直しについて話題となっている。負担になっているとの声もあり、必要性についてごみゼロ化推進員にアンケートを取るといった話もあるため、ここで報告させていただく。
岡山会長	本日はここまでとする。その他、報告事項はあるか。 特に報告は無いようなので、次回の日程について事務局から願います。
富田減量推進係長	次回、審議会は平成30年1月22日、月曜日、午後5時から午後7時までで開催したい。場所は追って連絡する。
岡山会長	それでは、これで閉会とする。